

平成23年行政事業レビューシート（外務省）									
事業名	日韓学術文化青少年交流基金拠出金（任意拠出金）			担当部局庁	アジア大洋州局			作成責任者	
事業開始・終了（予定）年度	平成元年度			担当課室	北東アジア課			課長 小野 啓一	
会計区分	一般会計			施策名	Ⅶ-1 国際機関を通じた政務及び安全保障分野に係る国際貢献				
根拠法令（具体的な条項も記載）	外務省設置法第4条第二項及び第三項 外務省組織令第40条			関係する計画、通知等	日韓学術文化青少年交流共同事業体協定書 （平成元年、その後平成11年に韓国側の組織改編により再締結）				
事業の目的 （目指す姿を簡潔に。3行程度以内）	両国間の学術・文化交流及び青少年交流を促進することにより、両国国民間の相互理解と信頼関係の醸成を図ること、及び両国間の過去の歴史を踏まえつつ、韓国の歴史及び両国関係の歴史について一層掘り下げた研究をおこなうための支援を通じ、歴史認識を中心とした相互理解の増進を図ることを目的としている。								
事業概要 （5行程度以内。別添可）	昭和63年2月の日韓首脳会談において、両国の人的交流、特に青少年交流事業を拡大することに合意したのに基づき、その後2度にわたる日韓外相定期協議を通じて平成元年5月に「日韓学術文化青少年交流共同事業体」が設立され、その日本側事務局を（財）日韓文化交流基金が、韓国側事務局を（財）韓国学術振興財団（現在は国立国際教育院が務める）が務め、日韓両国政府が策定する日韓間の学術文化知的交流事業（次世代を担う青少年を対象とする青少年交流事業や日韓の若手研究者が相手国での滞在研究を行うための支援を行う学術研究者交流事業）等を実施している。								
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
予算額・執行額 （単位：百万円）	予算の状況			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
			当初予算	310	310	295	295	251	
			補正予算	-	-	-			
			繰越し等	-	-	-			
			計	310	310	295	295	251	
	執行額		310	310	295				
	執行率（％）		100.00%	100.00%	100.00%				
成果目標及び成果実績 （アウトカム）	成果指標				単位	20年度	21年度	22年度	目標値 （23年度）
	本件拠出は、両国国民間の相互理解と信頼関係の醸成を図ることを目的としていることから、事業の性質上、全ての事業の成果目標及び成果実績を定量的に示すことは困難であるが、一部事業（フェローシップ）の成果目標・成果実績は右のとおり。			成果実績	人	21	19	19	30
				達成度	％	100%	90%	100%	
活動指標及び活動実績 （アウトプット）	活動指標				単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	本件拠出は、両国国民間の相互理解と信頼関係の醸成を図ることを目的としており、事業の性質上、全ての事業の定量的な見込みを示すことは困難であるものの、一部事業（人物交流事業）の成果目標・実績は右のとおり。			活動実績 （当初見込み）	件	41	50	46 （46）	— （49）
単位当たりコスト	成果実績及び活動実績の双方が定量的に示せないため記載できないものの、一部事業（人物交流事業）の一件当たりのコストは以下のとおり。 ・草の根交流 1,000千円 ・国際会議・シンポジウム・芸術交流 500千円 （但し事業全体予算額の50％以内）			算出根拠	一件当たりのコスト				
平成23年度（単位：千円） （予算内訳）	費目		23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	拠出金		294,864	250,634	拠出額減額				
	計		294,864	250,634					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の	－	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	－	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	－	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	支出された拠出金案件については、日本側事務局である日韓文化交流基金と事業実施段階で十分な協議を行っており、また各年度毎に事業報告書の提出を受け、また、少なくとも3年に1度、同法人に対し立入検査を実施していることから（直近では平成21年7月に実施）、定期的に支出先（契約相手）選定方法を始めとする手続の適正性等についても確認している。 今後とも予算を最大限効果的に活用するための努力を続けていく必要はあるが、本件拠出を通じた一連の事業は両国間の日韓首脳の合意等に基づき、韓国側と協調しながら実施している事業であるので、現在の水準を維持することが重要であるとする。		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	拠出額減額		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）			
縮減（拠出額減額）			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
事業仕分け（平成21年11月実施）：事業番号2－50 国際機関等への任意拠出金 評価結果：見直しを行う。 とりまとめコメント： 第2WGとしては、更なる見直しを求めたい。重複の排除及び民間実施等の観点から、見直しをおこなっていただきたい。また、可能なものは国に返還することも行っていただきたい。なお、見直しの観点にあてはまらない拠出金については、見直しを行わないことにも留意して、新政権の下で具体的に精査を行う必要がある。 また、外交の目的は国益たることを前提として、効果や検証の仕組みをきちんと作るべきであり、体験談や印象による正当化では国費を投入する根拠にはならないという点も考慮して、検証・改善していただきたい。 最後に、いつまでこの拠出金を出し続けるかについても、戦略が見えてこないことから、新政権の下でしっかりと議論を求めたい。			

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

外務省
295百万円

日韓学術文化青少年事業体
295百万円

日韓文化交流基金
295百万円

費目・使途 (「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	日韓学術文化交流事業			E.		
	費 目	使途(日韓学術文化交流事業)	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	旅費	会議メンバーの旅費	30			
	会議費	日韓文化交流会議及び日韓歴史共同研究委員会等の会議費	2			
	諸謝費	会議メンバーへの諸謝金	3			
	助成費	学術研究者への助成費	56			
	研究費	会議メンバーに係る研究費	0			
	その他	出版印刷費, 資料作成費, 雑支出	2			
	人件費	職員給与, 福利厚生費	51			
	計		144	計		0
	日韓知的交流事業費支出			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	旅費	会議メンバー旅費	4			
	会議費	日韓新時代共同研究プロジェクト等の会議費	2			
	諸謝費	会議メンバーへの諸謝金	5			
	助成費	会議メンバーへの研究助成費	4			
	その他	出版印刷, 図書購入, 通信費, 資料作成費等	11			
	計		26	計		0
	事務局経費			G.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	事務費	一般事務費	8			
	人件費	幹部給与, 福利厚生費, 退職金給付引き当資産取得支出	19			
	その他	光熱水料費, 賃借料費, 清掃費等	64			
	計		91	計		0
	D.			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日韓学術文化青少年事業 体	拠出金	295	—	—
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					